

卷頭言

副会長就任のご挨拶

日本板硝子株式会社 社長
松村 實

平成6年6月6日に開催された総会で、会員各位のご支持を賜り、副会長に就任させて頂きました。任期の2年間は、鈴木会長を始めとする役員の方々と共に当フォーラムの充実・発展のため、この重責を全うしたいと思います。

ガラスは五千年あるいは八千年以上も前から造られていたと言われ、人類の生活に深く関わってきた材料です。しかし、その長い歴史は、例えば、ベネチアガラスに代表されるように、伝統的な職人芸を中心としたガラス製造技術によって支えられていました。用途も、装飾品、食器、窓ガラスなど、日常生活を中心としたものでした。従って、「科学」あるいは「学問」と呼べるような発展は充分とは言えませんでした。近年、ガラスの持つユニークな特性を最大限に引き出すための「ニューガラス」が登場し、他の材料並に理論的なアプローチが急速に進展し、直接各種産業の発展に貢献できるようになりました。

21世紀に向けたキーワード、「マルチメディアを軸とした高度情報化社会」、「環境保全・リサイクル」、「クリーン・エネルギー」などを考えますと、いずれの分野でも「ニューガラス」抜きでは実現が難しく、重要なキーマテリアルのひとつであるとの認識が広がりつつあります。

この「ニューガラス」の発展に産・官・学が一体となって寄与すべく、当フォーラムが9年前に設立されたのは、誠に意義深いものがあります。この設立に奔走された諸先輩の先見の明には今更ながら頭が下がる思いです。

製造業を取り巻く環境は、依然として厳しい状態です。一部に景気回復の兆しが見え始めたとはいえ、不透明な政治・経済状態がしばらくは続くものと思います。このような環境下では、とかく新しい分野へのチャレンジは萎縮してしまいがちです。しかしながら、新材料・新技術の開発は、ある日突然生まれるものではなく、地道な活動が必要です。当フォーラムの活動が、会員各位の「ニューガラス」開発意欲を刺激し、引いてはニューガラス産業の発展に少しでも貢献できれば、望外の喜びです。

当フォーラムは、来年で設立10周年を迎えます。設立以来の活動が実を結びつつあり、「ニューガラス」が世間で認知されるようになってきたことは喜ばしいことあります。これまでの活動を、基盤固めと位置づけると、今後は更なる発展を目指した新たな活動が必要となります。会員各位の意見に耳を傾け、そのニーズに沿った活動、若手後継者の教育・育成、大学の諸先生との連携などを考慮し、会員各位に過度の負担を強いることなく、着実に成果の上がるような活動をしていきたいと考えております。

会員各位を始め、諸先輩あるいは通商産業省の関係者各位のご指導とご協力を仰ぎながら、この責務を果たす所存でございます。ご支援の程、よろしくお願い致します。